

「秋の東北鉄道旅行 (15)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

秋田駅には、奥羽本線、羽越本線、田沢湖線の在来線に加え、秋田新幹線の終点でもある。秋田新幹線は新幹線とはいっても、フル規格の線路を走るのは、東京～盛岡間だけで、盛岡～秋田間は在来線の田沢湖線と線路を共有している。いわゆる「ミニ新幹線」と呼ばれる方式である。



秋田駅に停車している新幹線も、確かに車両は新幹線だが、普通の在来線ホームに停まっている列車と雰囲気は同じだ。同じ線路を走る田沢湖線の普通列車は、新幹線と同じ線路を走れる、特別な台車の電車が使われている。



角館までは 45 分ほどで着いた。この駅も新幹線と在来線共有だが、改札はホームにそのままつながっていて、まるで東上線の小川町駅のような。一見新幹線の駅には見えない。



さすがは「武家屋敷」で有名な角館である。駅舎も武家屋敷風で、なかなか風格が感じられる。雰囲気は信州の小布施駅に似ていると思った。



角館駅から「武家屋敷通り」までは 1km もないのだが、帰りの秋田行き新幹線まで 1 時間半しかなく、武家屋敷通りそのものも結構長いので、自転車を借りることにした。自転車があると、行動範囲がぐっと広がるのだ。一回 300 円で、荷物も預かってもらえる。コインロッカーよりもお得だ！



駅前から武家屋敷通りに向かう、メイン・ストリートは閑静な商店街という感じで、これもどことなく埼玉の小川町に似ている。電動ではない自転車だと、ゆるい起伏もよくわかる。観光客は結構多かった。